



むらせ ひとし
村瀬 旬
(至誠)

小学校の授業を充実させるため子ども支援員を増員することについて。

問 支援員の必要性はなにか。

教育長 通常学級に在籍しているものの、LD(学習障害)、ADHD(注意欠如・多動性障害)、自閉スペクトラム症等特別な支援を要する児童に対し、個別の教育支援計画に基づき学校における学習や生活を支援することや集団への適応が難しい児童の悩みや不安等をやわらげたり、基本的な習慣を身につけたり、担任と支援員の複数での指導体制により、きめ細かな指導の充実を図ることを目的に配置している。したがって、児童に対する必要な支援が多様化・複雑化しており、さらに支援を必要としている児童数の割合が増加傾向にある中で、担任1人では該当児童の対応に苦慮している部分のサポー

トや児童の学校生活の充実を図るうえで、子ども支援員が必要な人材であると認識している。現在、富士宮市には26人の支援員が配置されている。内訳は富士根北小学校に1人、東小学校、黒田小学校、大宮小学校、貴船小学校、西小学校に各々2人、富丘小学校、富士見小学校に各々3人、富士根南小学校に4人、大富士小学校に5人を配置し、児童が毎日より良い学校生活を送れるようにサポートしている。増員については、教育現場の現状や要望の実情に対応すべく、令和5年度予算で前向きに進めている。

市長 財政を握るこちらのほうとすると、私からはしっかりと指示をした。



ふなやま けいこ
船山 恵子
(富岳会)

子どもたちを地震や交通事故から守るために

問 地震災害や交通事故から児童を守るために、ヘルメットを着用しての登下校について市の考えを伺う。

教育長 最近では軽量化され、通気性に優れたヘルメットが販売されていることも理解している。小学校入学から卒業までに児童の体は成長し、都度の買替えを考えると、保護者の金銭的な負担、夏場には熱中症の危険性も危惧される。これらのことから、現在難しいと考える。

問 大阪北部地震の時、高槻市の4年生女子児童が、ブロック塀の倒壊により死亡している。現在小学校のブロック塀などは撤去されたと思うが、通学路周辺のブロック塀について、どの程度把握しているのか伺う。

教育長 平成30年6月に実施された「学校にお

けるブロック塀等の安全点検について(通知)」に関する追跡調査が昨年度実施された。通学路周辺のブロック塀については、学校だけでなく、地域からも、区長会やPTAの会合、学校評議員会等をとおして、危険箇所の情報収集をしており、関係課と連携し情報を共有している。

南海トラフ地震にどう備えるか

問 市内を走っている活断層の上やその近くに、家屋が建ち並んでいる現状をどのように認識しているのか伺う。

部長 市内の活断層は、大宮断層、安居山断層、芝川断層等のほか、大小様々な断層により構成されている。南海トラフ地震や富士山噴火などにより動く可能性があり、災害につながるものと考えている。活断層の上や近くに家屋等が建ち並んでいることは認識している。活断層の位置を掲載した防災マップを各家庭に配布し、市民の皆様には、断層帯位置図等を活用し、また活断層のリスクについて理解し、災害に備えていただきたいと考えている。